

# 三條南ロータリークラブ週報

## Sanjo Minami Rotary Club



2012.10.29

No.2055

No.13



出席率 会員48名中37名

先々週の出席率 91.30%

ゲスト 米山奨学生 才布騰道日吉さん

先週のメークアップ 10/24 三条RCへ 平松修之君 西潟精一君

佐々木常行君 高橋祐介君 渡辺俊明君

田代徳太郎君 吉井正孝君

10/25 燕RCへ 佐々木常行君 谷 晴夫君

10/26 社会奉仕セミナー（長岡）へ 吉井正孝君

10/28 柏崎RC創立60周年記念式典へ

馬場信彦君 坂井範夫君 丸山征夫君



### 会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長

坂井 範夫

皆さん、こんにちは。ご挨拶申し上げます。

10月最後の例会です。今年も残すところ2カ月となりました。

昨日は、柏崎ロータリークラブの60周年記念式典に馬場パストガバナー、丸山幹事と共に出席して参りました。

11時に開会し、「このご時世ですので質素に行います」との言葉通り、実際簡素な式典でしたが、記念特別公演 国指定重要無形民俗文化財『綾子舞』は見どころのある素晴らしいものでした。

この『綾子舞』は、柏崎市内鵜川の里に伝わる民俗芸能。越後国守護・上杉房能の自刃後（1507年）、この地に逃れてきた妻の綾子によって踊りが伝えられたという伝承があり、約500年の歴史を持つそうです。初期の歌舞伎の様相を伝えており、1975年の文化財保護法の改正によって制定された重要無形文化財の第1回の指定を受けたとのこと。

その後、祝賀パーティーに移りましたが、「パーティーだけは質素には致しません」と挨拶があり、その通り、なかなかのおもてなしをいただきました。

10月は「米山月間」です。本日は月間に因んで、鈴木武米山奨学委員長、奨学生のドルジ君より卓話をいただきます。よろしくお願い致します。

なお、次週11月5日の例会は田中衡機工業所さんでの「職場例会」です。田中さん、お世話になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 四つのテスト

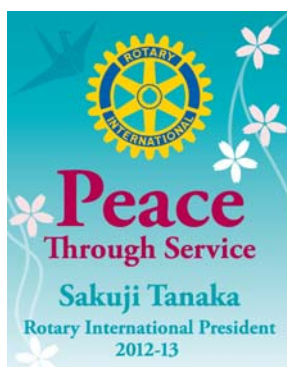
一言行はこれに照らしてから

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 田中 作次 [埼玉、八潮]

第2560地区ガバナー 鈴木 重彦 [長岡]

第4分区ガバナー補佐 杉山 太三郎 [巻]

会長 坂井 範夫

幹事 丸山 征夫

S A A 永 桶 俊一

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

**三條信用金庫 本店内**

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

## □ マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

吉井 正孝君 (段階2 累計額 3,000\$)



ご協力ありがとうございました

# ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 10月29日 13,000円  
今年度累計 304,000円～

**坂井君** 今日は「米山月間」です。鈴木 武さんのお話があります。ご苦労様です。そして、ドルジ君、ようこそいらっしゃいました。

**丸山君** 道日吉君、故郷(ふるさと)のこと教えてもらうのが楽しみです。

**鈴木(武)君** 今日は「米山月間」です。ドルジ君、よろしくお願いします。

**野中君** 鈴木園彦さん、本日のBOX担当ご苦労様です。急なお願いですみません！

**石山君、草野君、滝口君、田中君、銅冶君、野崎君、野水君、馬場(一)君**  
BOXに協力いたします。

**鈴木(園)君** 久しぶりのボックス担当です。米山奨学生ドルジ君、本日の卓話ご苦労様です。楽しみにしています。

## □ 「ロータリー米山記念奨学事業とは・・・」

鈴木 武 米山奨学委員長



米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリークラブで始められたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省(現在の文部科学省)の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

**奉仕の人 米山梅吉** 米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏(1868-1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)ウエス

レアン大学(オハイオ州)シラキュース大学(ニューヨーク州)で8年間の苦学の留学生活を送りました。帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を「社会への貢献」とするなど、今日でいうフィランソロピー(Philanthropy)の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。

**世界の平和を願って** 「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」――。

事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。

それから50年以上の歳月が流れましたが、“民間外交として世界に平和の種子を蒔く”という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えると、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。



ロータリー米山記念奨学事業は、全国のロータリーからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奉仕です。

- 日本最大の民間奨学事業
- 年間採用数 800 名（2013 年 4 月より 700 名）
- これまでに支援してきた奨学生 累計 17,028 名（121 カ国）

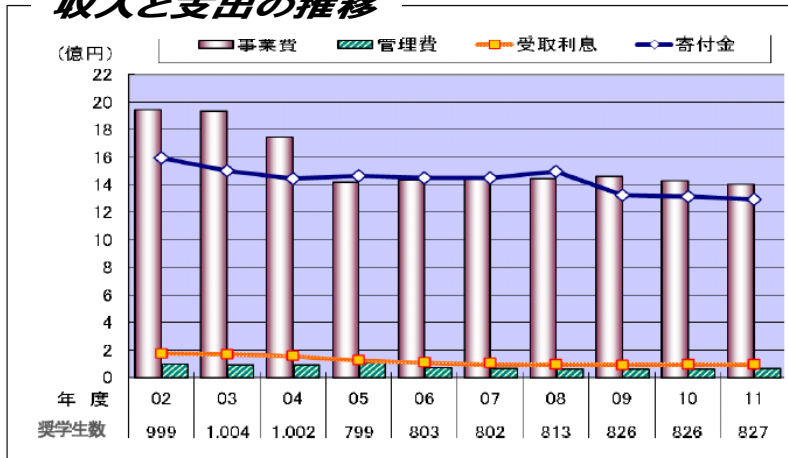
寄附金は全て奨学事業のために使われています。

- ロータリー米山記念奨学会の財政は、全てロータリアンの寄付で支えられています。
- 収益事業は行われていません。理事会・評議員会・委員会開催費用や事務局の人件費、借室料などの管理費は、資産運用益でまかなわれています。

事業費の内訳として

- 事業費は年間 14 億 500 万円（2011 年度決算）、最も大きいのが奨学金です。
- 800 名分の奨学金は 12 億 895 万円
- 奨学金以外の事業費 1 億 9,525 万円は・・・地区への補助費（奨学生の選考、オリエンテーションや終了式費用など）、世話クラブへの補助費、DVD 作成などの広報活動費用、寄付増進（表彰品作成など）の費用、奨学事業に関わる事務局人件費、借室料、ホームカミング費用、奨学生への終了証他に使われています。

### 収入と支出の推移



- 寄付金収入に見合った支援規模とするため、2005 年度より奨学生数を 1,000 名から 800 名に減らして奨学事業を行ってきましたが、2009 年度より寄付金収入が事業費を下回るようになりました。
- 寄付金減少による不足分を補うために、2010 年度と 2011 年度は特別積立財産を取り崩して 800 名支援を維持してきましたが、2011 年度の取り崩し実行により理事会で決定された取り崩し限度額に達したことから、これ以上の資産取り崩しによる補完はできなくなりました。
- 2013 年 4 月からは奨学生数を 700 名とし、事業が行われます。

米山記念奨学への寄付はあくまでも任意のものですが、当クラブは“全員で米山功労者になろう”の目標のもとメンバー皆様より一律に会費と一緒に、あるいは「新会員を歓迎して」「公式訪問に際して」…等の機会に BOX 協力いただいております。今後どうぞ、米山記念奨学事業にご理解とご支援をよろしくお願い致します。

米山記念奨学会ホームページ参照。なお詳細につきましては財務状況等含め全て公開されております。

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp> よりご覧ください。

ツァイブドン ドルジ

## 「中国の少数民族—モンゴル族—」

米山記念奨学生 才布騰道日吉 さん  
長岡技術科学大学大学院



中国は世界最大の人口を擁する国家です。人口は約 13 億 3 千万人（2010 年）。また、中国には 56 の民族が存在する多民族国家でもあります。国民の 92% を占める漢民族以外の 55 民族は少数民族です。

現行の中華人民共和国憲法第四条で各民族の一律平等、各少数民族の区域自治の実行や各民族の言語・文字の使用と発展の自由などを定めています。中国で少数民族の集まり住む地域において民族区域自治制度を行使されています。民族区域自治制度とは、国の統一指導の下で、少数民族が集中的に居住している地域で区域自治を実行し、自治機関を設立し、自治権を行使する制度であります。

民族自治地方自治機関の自治権として

- ①民族立法権
- ②弾力的執行権
- ③財政経済自主権
- ④文化、言語文字の自主権
- ⑤治安部隊編成権
- ⑥少数民族幹部は優先任用権を有する

などがあります。

主な少数民族地域として、内モンゴル自治区、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区、チベット自治区、広西チワン族自治区の 5 つの自治区があり、他に 30 自治州、120 自治県（旗）があります。

モンゴル族が主に居住している地域は内モンゴル自治区です。内モンゴル自治区では、モンゴル族の人口は約422万人、自治区総人口の約17%を占めています。

基盤産業について、基幹産業：農業・畜産業・林業・鉄鋼業。主要な農作物はソバで、日本に輸出されています。また、豊富な石炭と天然ガスの他、希土類の生産は中国一。

内モンゴル自治区以外に青海省（約10万人）、新疆ウイグル自治区（約16万人）、甘粛省（約1万人）、遼寧省（約66万人）、吉林省（約15万人）、黒竜江省（約13万人）、河北省（約18万人）にもモンゴル族の居住地となる自治州や自治県があります。内モンゴル自治区を含めて、中国にいるモンゴル族の人口は約600万人近くとなります（2010年）。

## 内モンゴル自治区



自治区首府：フフホト市

面積：118.3万平方km

人口：約2,471万

モンゴル族：約422万人  
全人口の17%

フフホト(Hohhot)市空港



## モンゴル語のウェブサイト



## モンゴル族の主な居住地

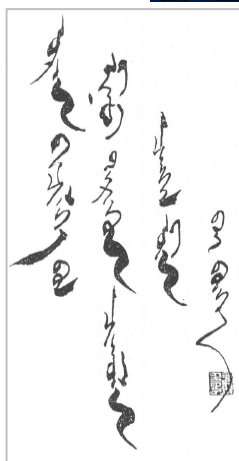


## 青海省 海西モンゴル族チベット族自治州



## ■ モンゴル文字

## 書道



モンゴル族の言葉は、モンゴル語です。モンゴル語は膠着語であり、文法的に日本語と似ています。モンゴル文字は専ら縦書きされ、左から右へと改行されます。モンゴル文字の電子化利用は他の文字に比べて遅れていますが、最近はその問題を改善しつつあり、徐々に電子化利用が普及しているところでもあります。

## モンゴル衣装



## モンゴル料理



ホウージュール



ポウーズ



ミルク茶



チーズ

## 草原&ゲル



モンゴル民族の伝統的な文化は遊牧です。しかし、現在はその移動式の遊牧生活がほとんどなくなり、定住化されています。伝統的な家であるゲルも観光地でしかあまり見られなくなってきています。遊牧民が飼育しているのは、馬・牛・駱駝・羊・ヤギで、五畜と呼ばれます。主な食品としては乳製品や羊の肉と小麦料理があります。



モンゴル族の代表的なお祭りにはナードムという民族祭典があります。主にモンゴル相撲、競馬、弓射 3 つの競技が行われます。



みなさん、チャンスがあれば是非現地に遊びに来てください。

## 付録



**首都** ウランバートル市 (Ulaanbaatar)  
人口 : 102 万 5,174 人

### 基盤産業

- ・基幹産業：農牧業、鉱業、観光業
- ・農牧林業では、カシミア、羊毛、皮革、毛皮、木材、家具などが中心
- ・鉱業では、モリブデン、銅、石炭が多く産出
- ・金、銀、錫、タングステン、鉛、石油、ウランなどの開発が期待されています。

### 文 字

- ・1946 年に、モンゴル文字からキリル文字に切り替え、キリル文字を公式に使用
- ・1994 年以降、モンゴル文字を義務教育化

### ロシア連邦にいるモンゴル族

ブリヤード共和国 : 45 万人      トゥヴァ共和国 : 23.7 万人      カルムイク共和国 : 17.2 万人

## 4RC 合同社会奉仕事業報告



### 南 三 陸 紀 行

～ 三条 4RC「東日本大震災被災地追悼の旅」を終えて～

東日本大震災復興支援活動の一環として、去年は、わが南クラブが中心となって開催した「落語」の公演に続き、今年の市内 4RCによる社会奉仕事業は、被災地で汗を流す直接的なボランティア体験活動に代えて、「被災地を訪れ」「現地に泊まり」、経済支援に努めると同時に、「被災の実態と力強い復興の槌音をこの目と耳に焼きつける旅」として計画した。

今年は三条北RCを幹事クラブとして、4クラブの社会奉仕委員長を中心に、3・4 回程の会議を重ね、実現した事業だった。

旅行社の選定に始まり、●開催時期の決定 ●岩手・宮城・福島県など、具体的な旅行先の決定 ●参加者の取りまとめと事前の人数把握 ●予算計画 ●実施までのタイム・スケジュール ●事業の実施に伴う各クラブの対応 等、担当者で話し合ってきた。

結局、当日の参加人数は、三条RC14名、三条北RC24名、三条東RC7名。そして、わが三条南RCからは10名の合計55名のメンバーが参加。しかし、いずれのクラブも予想人員の7割程度に終わり、その分、一人当たりの費用が増え、当初予定していたクラブからの補助金の出費も大幅に超える結果となってしまった。45名が乗れる大型バスも、既に2台が「発注済み」だった。

予想7割の参加者とは言え、募集する側はそれぞれ大変だった。無理に参加を頼んだ結果、この旅行コースは、今年に入って3回目・・・！と言う参加者の話を何人からも聞いた。誠に申し訳ない「お願い」だった。

10/16(火)AM 7:20 三条ロイヤルホテル駐車場

快晴のもと、参加者全員が集合。新潟交通の大型バス 2 台に分乗。南クラブは三条RCと一緒に①号車。出発時に積み込んだ飲み物の量の多さに、全員が一様に驚く。AM 7:30「定刻出発」。

AM 11:40 昼食

いくつものサービス・エリアに寄りながら、仙台市郊外のアウトレット内のレストラン「伊達の牛タン」で名物：牛タン焼定食を賞味。

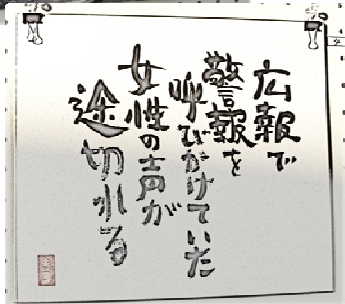


PM 3:00 宮城県「南三陸町」到着 南三陸町視察研修を開始

予定よりバスの到着が遅れ、現地駐車場には、既に地元の「語り部」が待機していた。彼女は、バスを視察ポイントに誘導しながら、ところどころでバスを止め、「津波」の恐怖と、被害の大きさを語る。話が家族や親戚の被災におよぶと、その目に「涙」が光った。



バスは、幸いにして被害を免れ、住民避難の拠点となった高台の公的施設「ベイサイド・アリーナ」に到着。ここで「パネル展示」と語り部で元 地元紙記者の 及川清孝氏の映像と解説による「私の体験した東日本大震災」～3・11 あ瞬間(とき)を忘れない～を、約 30 分間聴講。再びバスに戻る。



これから南三陸町被災のシンボルで「最後まで住民に高台避難を呼びかけ、自ら犠牲となった女性職員」をはじめ、多数の犠牲者を出したあの『防災対策庁舎』を目指した我々は、思わぬ「予定変更」を迫られる。その頃、時刻は午後 4 時 30 分。これからこの庁舎跡で、4RC合同の「献花」と一連の「追悼行事」を予定していたのだが…。

今日これから、庁舎跡の視察ができない訳を、語り部の女性から説明があった。

今年の 3・11 以後、静かで美しかったここ南三陸の海岸線では大きな変化が見られ、「満潮」になると、今だに海水が上がり、一面水浸しになると言う。一年半以上が過ぎてもこの有様。呆れるやら、腹が立つやら…！結局、何の復興も進んでいないということだ…！





海岸に近い被災地の細かいガレキはあらかじめ撤去され、住宅があり、ここに人の生活が在ったことの「証」の土台だけが、キッチンと残されている。震災の事実や、今も海水が上がる実態を知らなければ、ここに新しく大きな町が創られる…と、「錯覚」してしまうかも知れない。それ程に、ここには何も復興の姿はなかった。

「献花」など、追悼行事は明朝に回して、高台の仮設商店街「南三陸さんさん商店街」に向かった。そこには仮設ながら約 50 の店舗が軒を並べ、懸命に頑張る人々の姿があった。



### PM 5:30 南三陸温泉「ホテル観洋」チェック・イン

予定より少し遅れてホテルにチェック・イン…。高台にあったこのホテルは、一階の「露天風呂」を除いて、津波の被害を免れた。若女将の機転で震災時には、約 500 名の人々の一時避難所を引き受けたと言う。そして唯一被災した海を望む「露天風呂」も、先週改修を終え、今回は「入浴可能」となっていた。

### PM 6:30 夕食会 兼 大懇親会が始まった…！

10 名の若いコンパニオンが、こも被災地「石巻」からやってきた。「追悼の旅」の夕食会にコンパニオン…？と、異論や抵抗感も事実あった。しかし彼女たちとの会話の中で、「彼女たちも被災者なんだ…！」と解ってきた。親兄妹、親戚に、怪我をしたり、健康を害したり、命を亡くした多くの人たちを周りに抱えていた。そんな話に触れると、彼女たちは遠慮なく涙をボロボロ流していた。

被災して生活を支えるため、昼は普通の仕事、夜はコンパ…と、話す娘もいた。こんな雰囲気の中、ややもすれば「暗い宴席」を懸念したが、案に相違して宴席は「異常な盛り上がり」を見せた。PM8:45 盛会の内に「お開き」…！



### 10/17(水) AM 5:45 南三陸の夜明け 夜の明けない「朝」はない！

今日も快晴。ホテルの予告どおり、AM 5:45 お天道様が昇り始めた。新潟では見ることができない太平洋からの「日の出」である。近海漁業の船も漁に出ている。実にのどかな朝の風景だ。ここが被災地であることを一瞬忘れる。誰が餌付けしたのか、日の出を眺めていたら、カモメがきて餌をねだってベランダに降りた。彼らは毎日見ている「日の出」には、関心が無さそうだ！



### AM 8:30 「防災対策庁舎」跡を訪問。



ホテルを出発。昨日の見学と追悼行事ができなかった「防災対策庁舎」跡にやってきた。暫くの間、みんな無言だった。黙って唇を噛んでいたら、涙が出てきて困った。私だけかと思って、構えたカメラにズームをかけたら、同じ状態のメンバーが沢山いて安心した。

4 クラブの会長が横一列に並び、三条 4RC を代表して、北RC 早川会長が献花を行い、みんな代わるがわるに線香をたむけた。ここで「記念写

真」を…、と言う話になったが、さすがにこの建物の前で…と言う気分になれず、少し離れた別の場所で南クラブだけの記念写真をこっそり撮った。

以上、宮城県南三陸町を中心に記録したこの『南三陸紀行』をもって＜被災地追悼の旅報告＞に代える。

この後は一路世界文化遺産「平泉」へ…。

2 回目を迎えたばかりの三条 4RC 合同の社会奉仕事業が「宿泊を伴う視察旅行」となった。この計画の実施についての思いは、それぞれのクラブにより温度差があったり、受け取り方にも多少の違いがあったのは事実だったと思う。

しかし最後は、幹事クラブの三条北RC岡田社会奉仕委員長に一任した。そして彼は見事にこの一大事業をまとめあげた。他の3クラブも彼に協力した。

10月26日(金)長岡で開催された地区ロータリー社会奉仕セミナーの懇親会に乗じて、長岡の「居酒屋」で、4RCの社会奉仕委員4人でささやかな「ハンバギ」をやった。その席は幹事の北クラブ岡田委員長への労いと、お互いの頑張りを称えあう有意義な宴席となった。

私にとっては、実際に「見る」と「聞く」では大違い・・・を、再確認した2日間の旅・・・。  
何人もの被災地の人々が、涙を流しながら話してくれた「生きてさえいれば・・・」の言葉が、今でも心に残る。  
この目で見えてきた東北・南三陸町が、一日も早く被災のモニュメントから、【復興のシンボル】となる日を願って私の「南三陸紀行」とする。

多忙の折、参加いただいた坂井会長はじめ会員諸兄に、心から感謝の意を表します。

～ ありがとうございます ～



文：吉井 正孝  
カメラ：馬場 輝仁  
吉井 正孝

Birthday

11月のお祝い



誕生日



会員誕生 29日 船久保孝志君

結婚記念 4日 馬場眞樹君・美恵子さん  
13日 西潟精一君・千代さん  
29日 赤塚 寧君・康子さん

12日 野中 悟君・恵美子さん  
15日 佐藤秀夫君・千枝さん  
29日 池田 稔君・正子さん

\* おめでとうございます \*

次週例会 11月12日 「ロータリー財団月間」  
地区ロータリー財団副委員長 野沢正信様  
次々週例会 11月19日 クラブ・フォーラム「地区大会報告」



表紙について

あの日の一枚

・・・「創立10周年記念式典」

受付風景

1978年6月4日於：三条市厚生福社会館

三條南ロータリークラブ週報

2012.10.29

No.2055 No.13